

2026年度 一般社団法人西部日本ボールルームダンス連盟競技規定

2025/12/01 交付

- 全ての西部日本ボールルームダンス連盟所属選手は以下のクラスのいずれかに属する
 - プロフェッショナル A・B・C・D級 の4段階、ただしCD級は混合戦とする
 - アマチュア A・B・C・D・E級 の5段階、ただしDE級は混合戦とする
- 尚、ボールルーム・ラテンアメリカンの2セクションにおいて、それぞれ独立した級を所持するものとする
リーダー、パートナーは各一名ずつとし、異なるリーダー、パートナーで競技会に出場するには事前に、
変更届の提出が必要となる。締切が過ぎた競技会への変更は不可とする
- すべてのクラスのプロフェッショナル登録選手およびA級からD級のアマチュア選手は登録に際して
登録費を必要とする・アマチュアE級選手は無料登録とする
- アマチュア登録選手は満16歳以上とし、満12歳から16歳未満は保護者の同意書を以て登録可能とする
- プロフェッショナル登録選手は公益財団法人日本ボールルームダンス連盟公認の、
プロダンスインストラクター資格所持を登録の条件とする
- 当団体公認競技会の採点方法はスケーティングシステムにて執り行う

-アマチュア規定-

1. 教師資格を保持している者及びプロフェッショナルである事を声明した者
2. ダンスを踊ったり指導したりすることで、必要経費以上の報酬や出演料を得ている者
(ウェブページ、SNS等で広告、告知している場合)
3. アマチュア選手として身分を失った選手が、その身分の回復を請願中にあるとき

上記3項目に当てはまるものはアマチュア選手として当連盟主催競技会に出場することはできない
また、アマチュア選手が報酬を得てデモンストレーションに出演する時は、
出演願いを本連盟に提出しなければならない。その場合も必要経費以上に報酬を受けてはならない

○昇級規定

- ・B級→A級 年間で決勝に4回入賞且つ3位以内に一度入賞した時、翌年度より昇級
- ・C級→B級 年間で決勝に4回入賞した時、翌年度より昇級
- ・D級→C級 年間で決勝に4回入賞した時、翌年度より昇級
- ・すべてのクラスにおいての補足事項

※競技が決勝から始まる場合、上位半数を決勝入賞としてあつかう

例) 5組参加で競技が決勝から始まった場合、3位までを決勝入賞とし、その他は準決勝入賞とする

※競技参加組数が1組の場合、決勝入賞ポイントは付与しない

※すべてのクラスにおいて8人決勝も入賞扱いとする

※B級～D級まではクラス戦のエントリー組数が100組以上の場合、

準決勝入賞も決勝入賞扱いとする(但しオープン戦は対象外)

※昇級規定は降級規定をクリアしていることを適応の前提とする

○即日昇級規定

- ・C級

エントリー組数ボールルーム40組、ラテン10組につき1組即日昇級

さらにボールルーム30組、ラテンは10組増える毎に1組ずつ増加、但し6組を限度とする

例: ボールルーム 40組→1組、70組→2組、100組→3組、130組→4組···

ラテンアメリカン 10組→1組、20組→2組、30組→3組、40組→4組···

・D級

エントリー組数ボールルーム 30組、ラテン 10組につき 1組即日昇級

さらにボールルーム 20組、ラテンは 10組増える毎に 1組ずつ増加、但し 6組を限度とする

例：ボールルーム 30組→1組、50組→2組、70組→3組、90組→4組 . . .

ラテンアメリカン 10組→1組、20組→2組、30組→3組、40組→4組 . . .

・E級

アマチュア DE級混合戦において初回ラウンドを突破すること

もしくは DE級混合戦において決勝入賞すること

・タイトル戦に下位級の選手が決勝（6位まで）に残った時 または 全日本クラス競技会で準決勝に残った時

B級→A級に昇級

C級・D級→B級に昇級

・タイトル戦で準決勝に残った時

C級→B級に昇級

D級・E級→C級に昇級

※但し、A級選手の出場が 6組に満たない場合、決勝進出者のみ 1階級昇級

※タイトル戦とはスクリヴァー杯・前期、後期西部日本・大阪インター・レアード杯のオープン戦を指す

○ポイント制即日昇級規定

アマチュア B級～D級において、競技結果に応じてボールルーム、ラテンアメリカンそれぞれにポイントを付与する。B級、C級は 20点、D級は 50点の取得ポイントに達した競技会開催日の翌々月より即日昇級とし、一つ上のクラスに参加できるものとする。取得ポイントは以下とする

- ・1位入賞 10点
- ・2位入賞 8点
- ・3位入賞 6点
- ・4位入賞 4点
- ・5位入賞 2点
- ・6位入賞～準決勝入賞 1点

※ただし、競技が決勝戦から始まる場合、取得ポイントは半分とする。6位以下は 1点とする

※即日昇級した選手は、その年は出場回数・成績による規定を問わず降級しない

(即日昇級規定注釈) 昇級時期および権利喪失について

D級以上の場合、翌々月より昇級後の級で出場可。

昇級前のクラスと併せて年間 4回の出場がない場合、翌年は 1階級降級する。ただし 8月以降に即日対象となった場合、年間出場回数 3回を昇級維持の義務とする

E級の場合、翌々月より D級として出場可。その年内に D級としての出場がない場合、昇級権利を喪失し翌年は E級に戻るものとする。但し、9月以降の競技会にて即日昇級した場合は、出場機会の回数を考慮し年内に出場がなくとも翌年より D級にて出場可とする。8月、9月の競技会にわたって即日対象となった場合、上記規定は最初に昇級した 8月の即日昇級の権利を優先とする

全ての級において、翌々月に昇級後の級が有効となるまでは昇級前の級で出場が可能とする

また、昇級時期が 2月からとなる場合、(年度を越える為) 特例として 1月より昇級を認める

○降級規定

1. 成績の項

・A級

年間を通じて準決勝に一度も入賞しなかった時

・B級

年間を通じて最終予選に一度も進出しなかった時

・C級

年間を通じて最終予選の一つ前に一度も進出しなかった時

- ・D級、E級
　　クラス維持に際し成績は問わない
 - ・すべてのクラスにおいての補足事項
　※上記成績は、西部日本ボールルームダンス連盟公認競技会において収めた場合のみ有効とする
　※準決勝以下各ラウンドともに組数による規定は設定しない
2. 回数の項
- ・A級からC級
　年間を通じて4大会競技会に参加しなかった時
 - ・D級
　年間を通じて競技会に一度も出場しなかった時
 - ・補足事項
　※全ての西部日本ボールルームダンス連盟公認競技会への出場を出場回数として数える
　※B級、C級選手は西部管轄内の当連盟公認競技大会の自己級戦にすべて出場した場合は降級を免除する
　※西部日本ボールルームダンス連盟主催タイトル戦において
　　B級は第一予選をクリアし且つ最終予選の一つ前入賞、
　　C級は第一予選クリアを条件とし降級規定、成績の項をクリアしたものとする
　※西部日本ボールルームダンス連盟主催のタイトル戦優勝組についてはこの限りではない
　　ただしカップル解消の際にはその権利を失う
　※スーパー・シニア、グランド・シニア、シニア戦のみへの出場の場合、出場回数には数えない
　※怪我・病気による診断書提出の場合、競技部の判断で1年間降級を免除する
　　但し診断書の有効期限は作成より一ヶ月とする。また診断書の提出による降級免除は一回とする
　※産休は母子手帳のコピー提出を以って該当年度の降級を免除する
　※競技参加組数が1組で競技が行われた場合も、出場回数のみ付与する
　※エントリー組数不足で開催が中止になった場合はエントリー代金の納付で該当セクションの
　　出場回数のみ付与する

○他広域加盟ボールルームダンス連盟からの移籍登録規定

所属していた連盟発行の級証明を提出することにより、当連盟においても同じ級にて登録可能

○学生競技ダンス連盟（以下学連）加盟選手新規登録規定

- ・当連盟主催タイトル戦において学連登録にて準決勝入賞、
- ・当連盟審査員（1人でも可）の学生全日本戦最終予選進入賞、
- ・当連盟審査員（1人でも可）のその他の学生オープン戦準決勝入賞、
　上記いずれかの成績を修めた選手はC級より登録可能
- ・当連盟審査員（1人でも可）のその他の学生オープン戦最終予選入賞者はD級より登録可
　それ以外の選手はD級よりの登録となる

※登録に際し学連委員長よりの登録申請書が必要

※上記は種目総合による成績とする（単科のみでは不可）

※上記成績は成績取得競技会より1年を規定適応期限とする

※学連成績を考慮しての西部連盟への移行登録は一度限りとする

○プロ転向規定

- ・アマA級（タイトル戦入賞者）→プロB級
　　その他のアマA級およびB級（決勝入賞者）→プロC級
- ・上記以外のアマ選手はプロD級から出場

※上記の成績はリーダーが取得したものを探用する

○服装規定

ボールルーム男子

- ・D級、E級：平服自由（正装、燕尾服可）

例：スポーツシャツ、ノーネクタイ、立カラー、蝶タイ、タキシード

但しランニングシャツ又は類似についてはチェックマークが適宜指導する

- ・C級以上：正装、燕尾服

※D級・E級共に学生服可

ラテンアメリカン男子 及び ボールルーム・ラテンアメリカン女子

- ・クラスを問わず自由

○その他の規定

- ・エントリー組数が6組に満たない競技の場合、その競技を中止する場合がある
- ・オープン種目はD級以上の登録選手から出場可能とする（E級登録選手は出場不可）
- ・学連に登録のある選手は西部連盟主催オープン戦に西部連盟への登録なしに出場することができる
ただし出場に際しその時点での学生在籍を証明する書面の提出を義務とする

-スーパーシニア・グランドシニア・シニア規定-

○参加資格

スーパーシニア競技会：リーダーの年齢が65歳以上

グランドシニア競技会：リーダーの年齢が55歳以上

シニア競技会：リーダー、パートナーの年齢が共に35歳以上

尚、登録料金は有料登録選手（自己級D級以上）は無料とし、無料登録会員は別途発生するものとする
新規登録の際には資格を証明する年齢確認が取れる身分証のコピーの提出を必要とする
また、競技会開催当日の年齢を参加資格とする

○級種別

スーパーシニア、グランドシニア、シニア共に、自己級と同じ級とする

○競技規定

西部連盟公認競技会におけるスーパーシニア戦、グランドシニア戦、およびシニア戦において、

競技ごとの成績に応じて取得ポイントを付与する

上記3セクションのボールルーム、ラテンアメリカンそれぞれ合計6セクションに

それぞれのランキングを作成し、最終試合が終った時点で、いずれかのセクションで

以下の成績を修めたものは自己級降級規程、成績の項をクリアしたものとする

ボールルーム A級 ランキング上位12位以内

B級 ランキング上位24位以内

C級 ランキング上位48位以内

ラテンアメリカン A級 ランキング上位6位以内

B級 ランキング上位12位以内

C級 ランキング上位24位以内

各競技の入賞者にはそれぞれ以下のポイントを付与する

1位 7点

2位 6点

3位 5点

4位 4点

5位 3点

6位 2点

7位以下決勝入賞、および準決勝入賞 1点
※競技に出場したものには上記ポイントと別に出場ポイントとして1点付与するものとする
※取得ポイントはそれぞれ単科戦で付与する
※参加人数に関わらず付与ポイントは上記ポイントとする
※エントリー組数不足で開催が中止になった場合、希望者にはエントリー代金の納付で
該当セクションの出場ポイントのみ付与する
※ランキング評価に際し、出場回数は問わない

-ジュニア・ジュニアル規定-

- JBDF 西部日本ボールルームダンス連盟ではジュニア、ジュニアル規定に関し JBDF 本部規定に準ずる
(参考 URL) <https://jbdf.or.jp/junior/competition/rules.html>

-プロフェッショナル規定-

○昇級規定

規定得点（年間で 26 点より）

1位：10点
2位：8点
3位：6点
4位：4点
5位：2点
6位：1点

・B 級→A 級に昇級時

規定得点の取得と 2 位以内に 1 回以上入賞する事
なお、競技の回数が 6 回以上のとき規定得点がさらに 3 点ずつ加算される
例：6 回→29 点 7 回→32 点 8 回→35 点 9 回→38 点 . . .

・C 級→B 級に昇級時

規定得点の取得と 3 位以内に 1 回以上入賞する事
なお、競技の回数が 6 回以上のとき規定得点がさらに 1 点ずつ加算される
例：6 回→27 点 7 回→28 点 8 回→29 点 9 回→30 点 . . .

・D 級→C 級に昇級時

規定得点の取得
なお、競技の回数が 6 回以上のとき規定得点がさらに 1 点ずつ加算される
例：6 回→27 点 7 回→28 点 8 回→29 点 9 回→30 点 . . .

・西部日本ボールルームダンス連盟主催のタイトル戦において以下の成績を修めた場合、昇級対象とする

決勝入賞（6 位まで）

B 級→A 級に
C 級、D 級→B 級に

準決勝入賞（組数を問わない）

C、D 級は一階級昇級

・すべてのクラスにおいての補足事項

※スクリーナー杯・西部日本・大阪インター・レード杯オープン戦をタイトル戦とする

※自己級において降級規定をクリアしていることを昇級の条件とする

※全クラスにおいて年間に必要な昇級点数は 50 点を最大とする

※プロ決勝入賞点数について

全てのクラスにおいて当日のラウンドが決勝戦より始まる場合、上位過半数の入賞者のみ決勝扱いとし
ポイントを付与、それ以外の組は予選扱いとする。（7組以上のエントリーの場合は準決勝を行う）
さらにその場合、付与する決勝点は下記の通りとする

例) 決勝 5 組でスタートの場合、1 位 4 点、2 位 2 点、3 位 1 点、4 位および 5 位昇級得点なし
(決勝扱いは 1 ~ 3 位まで)

また決勝開始の試合が過半数を超える昇級者が居ない場合、
当該部門の年間成績状況を精査し、上位 3 組を昇級とする
必要な昇級ポイントに関しては従来の規定通りとする

○降級規定

1. 成績の項

・ A 級

- ・ 年間を通じて自己級の準決勝に 2 回入賞しなかったとき
全日本クラス競技会は 48 位入賞で自己級の準決勝に 1 回入賞とする
 - ・ 下記成績を収めた場合は自己級の準決勝 2 回入賞に相当するものとする
- | | |
|---------------------|--------|
| 西部地区加盟連盟主催オーブン戦 | 決勝進出 |
| クラス戦競技会 | 決勝進出 |
| 10 ダンス選手権 | 決勝進出 |
| 西部連盟主催タイトル戦 | 準決勝進出 |
| 他広域加盟連盟主催インターナショナル戦 | 準決勝進出 |
| プロジャパントロフィー | 準決勝進出 |
| 全日本クラス競技会 | 準々決勝進出 |
- (スーパージャパンカップ、JBDF 選手権、日本インター、統一全日本)

※ただし、他広域加盟団体局主催全日本クラス戦においては A 級が 12 組以上出場を条件とする

・ B 級

- ・ 決勝に一度、もしくは準決勝に二度入賞しなかったとき

・ C 級

- ・ 準決勝に一度も入賞しなかったとき

・ すべてのクラスにおいての補足事項

※競技会当日の出場組数により、準決勝からラウンドが始まる場合は

準決勝進出 1 回とは認めない。決勝進出者のみ成績有効とする

※開催クラスの競技会当日の出場組のうち、開催クラス所持組が過半数に満たない場合は、

3 位以上入賞を決勝進出とし、4 位以下決勝入賞者を準決勝入賞扱いとし、

それ以外を予選敗退とする

※エントリー組数が 6 組に満たない競技の場合、その競技を中止する場合がある

2. 回数の項

A 級から C 級

- ・ 義務の有る競技会の半数以上は西部連盟管内の競技会に参加すること。ただし 5 回を上限とする

※当連盟主催タイトル戦および西部加盟連盟主催オーブン戦は出場義務回数に含める

(渡航、出産の手続きを完了した選手は省く)

- ・ オーブン戦と自己級戦の競技が同日に行われる場合、必ず自己級戦に参加した上でオーブン戦に出場のこと

- ・ 新規登録で年度途中から出場の場合、登録時点からその年末までの義務のある競技会の過半数が対象となる

※西部連盟主催のタイトル戦優勝組については降級対象としない

※競技参加組数が 1 組で競技が行われた場合も、出場回数のみ付与する

※エントリー組数不足で開催が中止になった場合はエントリーフィーの納付で該当セクションの
出場回数のみ付与する

○公傷による降級免除規定

公傷による降級免除に関しては診断書提出の上、程度および期間に関しては個別に検討することとする
但し、公傷は競技会当日、フロア上の事故に限り適応する

○産休申請による降級免除規定

産休の手続きを完了したものは、母子手帳の発行日時より該当年度および翌年を産休該当年度とする

- ・上記 1. 成績の項および 2. 回数の項を 2 年分合計しクリアすれば自己級維持とする
- ・母子手帳発行日より 1 年間は競技には参加できない
- ・日程変更等で競技日程が変更された場合、2 度に渡り同名の競技会には参加できないものとする
- ・該当年度が経過した後は自動的に競技復帰とみなす

○上位級への挑戦規定

1 つ上のクラスへの挑戦を可能とする。ただし同日開催される自己級戦への参加を条件とする

年間を通して上位の昇級成績も取得した場合、2 階級昇級とする

○全日本クラス競技会競技結果においての特別昇級規定

B 級以下は、全日本クラス競技会にて準決勝 1 回進出、または準々決勝 3 回進出で翌年 A 級への昇級とする

-全国大会への選手選考基準-

○基準

1. 全国ランキング 96 位まで
2. 選考する日より一番近いタイトル戦の決勝 又は 準決勝を優先とする（クラスに関係なし）
　　タイトル戦：スクリーナー杯・前期、後期西部日本・大阪インター・レアード杯
3. 次は順次近いタイトル戦の決勝者（クラスに関係なし）
4. 順次近い当連盟加盟連盟主催コンペの決勝者（A 級のみ）
5. 順次近いタイトル戦の準決勝者（クラスに関係なし）
6. 順次近い加盟連盟主催コンペの準決勝者（A 級のみ）
7. 残っている A 級選手より（1. タイトル戦の最終予選 2. 加盟連盟主催コンペの最終予選 3. 出場回数等）
8. それでも満たない場合 B 級の得点数上位より選考する

※一年前の同大会の権利は消滅する

※選考対象競技会申込締切日直近の大会までを選考基準の対象とする

※選抜される権利を有する選手が何らかの事情でパートナー変更の場合は

　　その権利が白紙に戻され新たに選考し直される

※項目 3～6 までは過去一年をさかのぼる

-ベーシックフィガー・ルーティン-

○ボールルーム

- ・JBDF 発行ボールルームダンステクニック書を全て基準とする
- ・チャート部分、先行、続行及発展に記載されているフィガー及ルーティンは使用可
- ・フィガーの最終歩を変化させて使用する事は不可
- ・フィガーの途中で他のフィガーに接続しての使用は不可
- ・註) の部分は使用可

○ラテンアメリカン

- ・JBDF 発行ラテンアメリカン書を全て基準とする
- ・チャート及先行、続行及発展に記載されているフィガー及ルーティンは使用可
- ・フィガーの最終歩を変化させて使用する事は不可
- ・フィガーの途中で他のフィガーに接続しての使用は不可
- ・註) の部分は使用可
- ・アームについては組合った腕、手以外のフリーアームの高さは自由（ラテンアメリカン書厳守）

○ベーシック規定違反について

- ・ベーシック競技にて、チェッカーから 2 度同じステップ違反を指摘された場合、得点に関わらず次のラウンドには進出できない
- ・予選で 1 回、決勝にて違反を犯した場合、成績に関わらず最下位とする
- ・予選がなく、決勝において初めてチェッカーに違反を指摘された場合、注意のみとするが意図的もしくは複数の違反をした場合は順位を最下位とする
- ・総合戦において 1 種目でも違反を指摘された場合は上記規定を適応するものとする

-その他記載なき事項について-

上記規定に記載なき事項に関しては隨時公正に運営委員会にて検討し、規定に加筆するものとする

~~2025年特例として、過去3年以上継続登録がなかった選手は最後のクラスより2階級、1年もしくは2年継続登録がなかった選手は1階級下のクラスから登録ができるものとする。これはコロナ禍開けの特例処置であり、本年のみの適応とする~~

上記規定は 2026 年 1 月 1 日より施行するものとする